

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 5 1	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Beer ethanol consumption and plasma homocysteine among patients with type 2 diabetes. 2型糖尿病患者におけるビールによるエタノール摂取と血漿ホモシステイン	
執筆者	
Sakuta H, Suzuki T, Ito T, Yasuda H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Res Clin Pract. 2007 Nov;78(2):202-7.	
キーワード	
ビール、エタノール、ホモシステイン、2型糖尿病	
要 旨	
<p>本研究では、2型糖尿病患者におけるビールや他の酒類によるエタノール摂取と血漿ホモシステインレベルの関係を調べた。腎症発症のない242名の男性2型糖尿病患者を用いて解析を行った。患者の全エタノール消費量は1日あたり<math>35.1 \pm 37.8</math>mlであり、ビールによるエタノール消費量は1日あたり<math>13.9 \pm 15.2</math>ml、他の酒類によるエタノール消費量は1日あたり<math>21.2 \pm 32.1</math>mlであった。全エタノール消費量、ビール以外の他の酒類によるエタノール消費量と血漿ホモシステインレベルには相関があったが、ビールによるエタノール消費量と血漿ホモシステインレベルには逆相関の傾向が見られた。1日あたり30mlのエタノール摂取した場合、全エタノールとビール以外の他の酒類消費に対してホモシステインがそれぞれ<math>0.6</math>、<math>1.1 \mu\text{mol/L}</math>上昇、ビールでは<math>0.7 \mu\text{mol/L}</math>減少すると考えられた。ビールのみを摂取する人の血漿ホモシステインレベルは<math>8.9 \pm 1.9 \mu\text{mol/L}</math>であり、ビール以外の他の酒類のみを摂取する人の血漿ホモシステインレベル<math>11.5 \pm 5.5 \mu\text{mol/L}</math>に比べて低かった。ホモシステインレベルへの影響という観点では、2型糖尿病患者におけるビール以外の他の酒類摂取はビール摂取よりも健康に良くないと考えられた。</p>	